

JICA モンゴル事務所ニュースレター 2017年4月号

トップニュース

「モンゴル ビジネス環境ガイド 2017年版」完成



「モンゴル ビジネス環境ガイド 2017」

モンゴルの経済情勢、投資・ビジネス環境及び産業動向等について取り纏めた、「モンゴル ビジネス環境ガイド 2017年版」が完成しました。同ガイドは、モンゴルの投資環境等に関する情報収集・分析や民間セクター開発支援の方向性について検討した「モンゴル国投資環境・促進にかかる情報収集・確認調査」の一環で作成したものです。2016年6月には、日モ経済連携協定(EPA)が発効し、日本からの投資誘致への期待は、一層の高まりを見せています。モンゴルでの事業展開や進出を検討されている日本企業の皆様は是非ご活用下さい(以下の URL からダウンロードできます)。

https://www.jica.go.jp/mongolia/office/activities/environment_guide/index.html

政治・経済動向

春国会で 2017年補正予算可決、増税等関連改正法案も承認

4月12日、春国会で2017年補正予算が可決され、あわせて所得税法等の改正法案が承認されました。これは、国際通貨基金(IMF)がモンゴルへの財政支援の条件として増税等を求めていることを受けて、対応がなされたものです。具体的には、個人所得税や自動車等の特別税の引き上げ、預金利子収入への課税、社会保険料の段階的な引き上げ等を通じて歳入増加を図るとともに、年金受給開始年齢の段階的な引き上げ等を通じて歳出削減を図ることを目的としています。市民から賛否両論の声が上がる中、増税策の一部は2017年5月1日から適用される見通しです。今後は、IMF等の支援の動きに注目が集まるほか、増税等には野党民主党が反対しており、6月26日に予定される大統領選挙への影響も注目されます。

その他の主要イベント、動向等

・4月17日～21日 バトボルドウランバートル市長、東京都公式訪問

プロジェクトの動き

「モンゴル国における鉄道カーブ区間用レール締結装置の普及・実証事業」、実施に向けた準備進む



試験導入候補区間視察時の様子

3月20～27日、中小企業海外展開支援事業「モンゴル国における鉄道カーブ区間用レール締結装置の普及・実証事業」の提案法人である(株)丸上製作所関係者が、事業開始に向けてモンゴルを訪問しました。同事業は、鉄道の安全性強化、保線業務効率化を目的として、同社製カーブ区間用レール締結装置(M-01)の有効性を実証し、普及を図るものです。同事業では、レール締結装置の試験導入や本邦招へい等を予定しています。今回の訪問では、道路・運輸開発省、ウランバートル鉄道等、関係機関と同事業の実施方針について協議し、モンゴル側関係者から、同事業に期待する声が多く寄せられました。今後、関係者間で同事業内容を書面で合意の上、約3年間の予定で実施される見込みです。

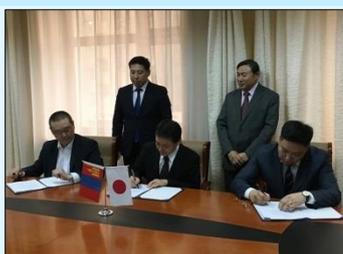
「一次及び二次レベル医療施設従事者のための卒後研修強化プロジェクト」第2回 JCC 開催



JCCの様子

4月10日、技プロ「一次及び二次レベル医療施設従事者のための卒後研修強化PJ」の第2回合同調整委員会(JCC)が開催されました。本PJでは、モンゴルの医療サービスの質の向上に向け、保健省と保健開発センターの卒後研修運営能力の強化や研修プログラムの改善などに取り組んでいます。今回のJCCでは、これまでの活動成果を確認した他、今後取り組むべき優先課題として、臨床研修指導医講習会(TOTWS)の制度化、AALS研修(高度救命診療コース)の研修計画策定、研修指定病院の評価方法の改善を挙げ、具体的な対応時期も含め関係者間で明確な共通認識を持つことができました。今後、PJ目標の達成に向け、日モ双方の関係者が一丸となった取り組みが求められています。

「国家温室効果ガスインベントリの継続的な改善サイクル構築にかかる能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査を実施



ミッツ署名の様子

4月9～20日にかけて、技プロ「国家温室効果ガスインベントリの継続的な改善サイクル構築にかかる能力向上PJ」の詳細計画策定調査を実施し、自然環境・観光省、環境・気候基金と同PJの概要についてミッツで合意しました。同プロジェクトでは、継続的かつ定期的にインベントリシステムを改善する能力の強化、エネルギー分野および土地利用・土地利用変化(LULUCF)分野における課題の整理・体系的なインベントリ改善能力の強化が期待されます。また、モンゴルの気候変動分野では、GIZやUNEP等も積極的な協力を行っており、他ドナー、国際機関との連携も含め、2017年秋のプロジェクト開始に向けて、引き続きモンゴル側と事前調整を進めていく予定です。

「公正競争環境改善プロジェクト」で本邦研修を実施



本邦研修時の集合写真

3月13～18日、技プロ「公正競争環境改善PJ」の活動の一環で、日本の独占禁止法の運用や競争環境確保に関する知識を習得する目的で本邦研修を実施しました。同研修には、ヤンジンズレン副首相顧問、公正競争・消費者保護庁(AFCCP)ラハグワ長官、国会議員等計15名が参加しました。現在、モンゴルでは、競争法改正に向けて政府内の検討が進められています。同研修参加者からは、「日本の知見を踏まえ、競争法を改正する上での基本的な考え方や今後、整理すべき内容が明確になった」との声が上がる等、実り多い研修となりました。

「工学系高等教育支援事業」高専留学プログラム第二期生の日本への旅立ち



高専留学生の集合写真

円借款「工学系高等教育支援事業」で実施中の高専留学プログラム第二期生26名が日本へと飛び立ちました。モンゴルの高校を卒業した後、同プログラムに入学し、1年半にわたって理数科目や日本語、英語を猛特訓。日本留学試験やTOEICなどで高得点を取得した学生が、晴れて日本の高専への留学する切符を手に入れました。彼らは日本の高専3年生に編入し、日本で工学系分野の理論・実践能力を習得します。モンゴルの工学系分野の発展を担う若者の活躍に期待が高まります。なお、同事業では、本邦大学教員等によるモンゴル科学技術大学の工学系カリキュラムの改善指導も行っています。

その他の事業の動き等

・4月30日に吉岡長期専門家(獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクト)が着任しました。

ボランティア事業の動き

ボランティア活動紹介 (国境を越えた隊員たちの活動「学校保健TV会議」)



モニターに映る各国のボランティア

3月10日、モンゴルのボランティア主催で、第6回学校保健TV会議が開催されました。同会議は「他国のボランティア活動が知りたい」というモロッコの学校保健ボランティアの発案で始まったものです。今回は「生活習慣の改善について」をテーマとして、アジア、アフリカの17ヶ国から計48名が参加し、過去最大規模となりました。モンゴルからは、米澤JOCV(H27-3/助産師)ほか6名が参加し、築山JOCV(H26-4/公衆衛生)が自身の活動を紹介しました。会議では質疑応答や意見交換が活発に行われ、他国ボランティアの活動からヒントを得て課題解決に向けて活動を再構築する良い機会となりました。今後も、同会議を通じて、ボランティア間で知識を共有し活動の質を高められるよう取り組んでいく予定です。

研修・帰国研修員同窓会

2016年グッドプラクティス賞の紹介「初中等理数科教育」



授賞式(右から2人目がアルタンズル先生)

今号では、帰国研修員のグッドプラクティスを紹介します。モンゴル最西端のゴビアルタイ県第一学校で生物学を教えているアルタンズル先生は、2015年11月に高知県で実施された青年研修「初中等理数科教育」に参加しました。その後、日本で得た知見を活かして、2016年3月にゴビアルタイ県の教師を対象に3日間のセミナーを開催するとともに、自身の経験に基づく教授法マニュアルも作成しました。さらに2016年10月には、帰国研修員同窓会の支援を得て、ゴビアルタイ県18郡の教師48名を対象に「日本の初中等理数科教育の紹介」というテーマでセミナーを開催しました。このような積極的な活動が評価され、帰国研修員同窓会の2016年グッドプラクティス賞を受賞しました。

事務所ナショナルスタッフが日本語で執筆!

コラム ～モンゴルの文化・生活事情紹介～ 「雪の下から咲く花・ヤルグイ」

モンゴルではマイナス30度の厳しい冬が終わり、ようやく春が訪れました。山の方に少し白い雪が見えるところも残っていますが、これから草原が緑に包まれる季節がやって来ます。モンゴルで、春先に咲き、国民に広く親しまれている花と言えば「ヤルグイ」です。4月中旬にハイキングに行ったところ、ヤルグイの紫色の花が当たり一面に咲いていました。モンゴルには、1000種以上の有用植物が生育していると言われていて、ヤルグイの花もその一つで、滅菌・解毒作用等があると言われ、伝統医学でも使われています。ヤルグイはヤギの好物で、ヤルグイを食べたヤギの肉は栄養分が豊富で人の体にも良いといわれています。(サイハナ所員)



春の訪れを象徴する花「ヤルグイ」



独立行政法人 国際協力機構 モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia
(Central P.O.Box 682, Ulaanbaatar 211213, Mongolia)

Tel:+976-325939, 311329 Fax:+976-310845 E-mail: mg_oso_rep@jica.go.jp